



世界冬の都市市長会 広報誌

2010年
10月発行

World Winter Cities Association for Mayors

〈世界冬の都市市長会事務局〉

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市総務局国際部内 TEL 011-211-2032 FAX 011-218-5168

e-mail : wwcam@city.sapporo.jp URL : http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/

モンゴルの首都ウランバートルに世界の冬の都市が集結！ ～2010年世界冬の都市市長会実務者会議実施報告～



実務者会議が開催されたモンゴルの首都ウランバートルのスフバートル広場

- 1 会 期：2010年7月8日(木)～10日(土)
- 2 会 場：ソンジン・グランド・ホテル（モンゴル・ウランバートル市）
- 3 参加者：会員都市6か国9都市／ウランバートル市からの参加者及び他都市からの参加者25名

【参加都市】

長春市、ハルビン市、瀋陽市（以上、中国）、マールドゥ市（エストニア）、札幌市（日本）、華川郡、太白市（以上、韓国）、ウランバートル市（モンゴル）、アンカレッジ市（アメリカ）

4 協議内容

前回市長会議の結果報告

2010年1月に行われた第14回市長会議について、開催市のエストニア・マールドゥ市より同会議の結果概要について報告が行われました。報告の最後に、マールドゥ会議の様子をまとめた映像が披露されました。



第14回市長会議の報告を行うゲオルギ・ブストロフ・マールドゥ市長

世界冬の都市市長会では、2010年7月にモンゴルの首都ウランバートル市において実務者会議を開催いたしました。当会議では、2012年に予定されている同市での第15回市長会議（ウランバートル会議）の開催計画案のほか、本会の運営面について会員都市間で協議をいたしました。

会議の冒頭、ウランバートル会議開催計画案の協議に先立ち、ムンフバヤル・ゴンボスレン・ウランバートル市長から歓迎の挨拶があったほか、前回市長会議の開催市であるエストニア・マールドゥ市のゲオルギ・ブストロフ市長より、同市長会議の結果報告がありました。

実務者会議の開催期間中にはこれらの協議のほか、市内視察や夕食会なども用意され、参加者はモンゴルの雄大な自然と素晴らしい文化に触れつつ、互いに親交を深めるなど有意義な3日間を過ごしました。

実務者会議の詳細は以下をご覧ください。



ウランバートル郊外の視察風景(会員都市参加者)



ナーダム記念コンサートの風景

第15回市長会議の開催計画案に関する協議

ウランバートル市より、最初に映像による同市の紹介があり、その後、第15回市長会議の開催計画案について説明がありました。主な内容は次のとおりです。

- 会議日程 : 2012年1月又は2月の3日間程度
- 会場 : ウランバートルホテル（市長会議・フォーラム）
ミシェル・エキスポ・センター（見本市）

○ 会議テーマ：「冬の都市におけるエネルギーの節約と効率的な消費」

エネルギー資源不足は世界的にも深刻な問題であり、モンゴル国内でもウランバートル市の人口集中と急激な都市化により大きな問題となっています。また、大気汚染も同様に重要な問題です。これらの問題に対する話し合いは、ウランバートル市のみならず、会員都市にも有益と思われる。

○ フォーラムセッションは、「熱エネルギーの節約と消費」、「電気エネルギーの節約と消費」及び「大気汚染」の3つのテーマを設定しています。各都市市長のほか専門家や市民など様々な分野の人たちの参加を見込んでいます。

○ 見本市を開催し、冬に関連した製品、冬の建築資材及び省エネ技術の展示を計画しています。

○ 会場のウランバートルホテルは、市内中心部にある5つ星ホテル。会議の使用言語について、配布資料は英語とモンゴル語とするほか、日本語、中国語、韓国語及びロシア語の同時通訳を用意する予定です。

○ 会議登録料及び宿泊費については、ウランバートル市が後日決定します。



第15回市長会議開催計画案を発表するムンフバヤル・ウランバートル市長



実務者会議の様子

市長会の運営に関する協議

新規活性化事業の実施について……………

韓国・華川郡が幹事都市となり、2011年1月から2月までのヤマメ祭り開催時において、「世界冬の都市市長会展示プラザ」を設置し、各会員都市の文化紹介等を行う予定です。



モンゴルの伝統的な建築物(写真はレストラン)



モンゴルの移動式住居(ゲル)

ウランバートル市副市長から (会議終了後のコメント要旨)



ガンボルド・ウランバートル市副市長による会議総括

「今回の会議では、ウランバートル市が環境改善のため尽力していることを参加都市に紹介することができました。モンゴル人は歴史的に自然を大事にする伝統がありましたが、近代化に伴い土壌汚染等の問題が発生してきています。新技術と昔ながらの生活の共存が重要であり、他の会員都市は20年から30年前に同じ問題に直面していたと思うので、皆様の貴重なご意見を聞いたことは大変嬉しく思います。」

自治体の諸活動における環境保全活動調査小委員会

(事務局：アメリカ・アンカレッジ市) アンカレッジ市より以下の報告がありました。

アンカレッジ市は持続可能な冬の都市の創造に向けての、同市の最近の取組事例について発表を行いました。

都市が確実に機能するためには、地方や国の行政による優れたリーダーシップが必要であり、アラスカ州は最近、意欲的な目標を掲げ、2つの重要なエネルギー法案を可決しました。



小委員会でプレゼンを行う、アンカレッジ市のスタローン氏(右)とカネロス氏(左)



世界冬の都市市長会とは

「世界冬の都市市長会」は、“冬は資源であり、財産である”というスローガンのもと、世界の冬の都市が集まり、冬の技術や経験を学びあうためのネットワークです。以前は、北方都市市長会議と呼ばれ、1981年に札幌市が提唱し、翌年に第1回の市長会議を開催したのが始まりです。2004年に名称を「世界冬の都市市長会」に変更しました。

これまでの会議では、都市計画、冬の都市交通、除排雪、リサイクル、冬の観光資源開発などについて市長同士がそれぞれの都市の知恵と経験を共有し、まちづくりのアイデアや厳しい気象条件を克服する手立てを学んできました。近年の会議では特に、地球温暖化問題などの環境問題に力を入れて取り組んでいます。



札幌市の取組事例を発表する上田文雄市長

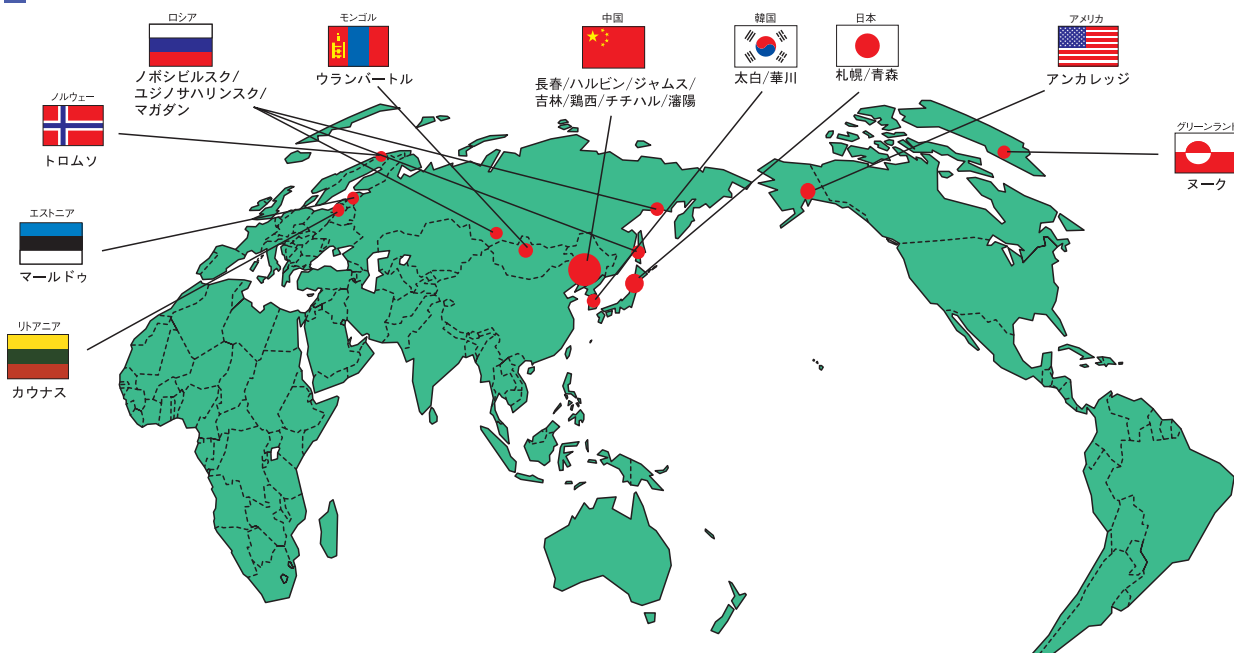
冬の都市とは

積雪または寒冷という気象条件のもとでまちづくりを行う都市。

積雪の基準・・・1年間のうちで積雪量の最大値が概ね20cm（8インチ）以上となること。

寒冷の基準・・・1年間のうちでもっとも寒い月の平均気温が概ね摂氏0度（華氏32度）以下となること。

会員都市 10カ国20都市（2010年10月現在）



主な活動内容

市長会議

世界冬の都市市長会の主要事業であり、2年に1度開催されます。

これまで14回の会議が開催されており、地球環境問題、都市計画、冬の都市交通、除排雪などについて、市長同士が先駆都市の知恵と経験を共有し、「まちづくり」へのヒントや厳しい気象条件を克服する手立てを学んできました。

市長会議は、市長自らが各都市の取組事例を紹介し、市長同士が膝を交えて率直な意見交換を行う格好の機会となっています。



長春市長会議の様子

小委員会

冬の都市の状況や先進事例を調査・研究する機関です。

これまでに、「リサイクル小委員会」、「観光促進小委員会」、「雪対策小委員会」、「自然災害対策小委員会」、「持続可能な冬の都市づくり小委員会」、「冬の都市環境問題小委員会」等が設置され、それぞれのテーマに基づいて調査・研究成果をまとめています。

現在は「自治体の諸活動における環境保全活動調査小委員会（事務局：アンカレッジ市）」及び「環境保全小委員会（事務局：長春市）」が活動しており、大気汚染や融雪剤の影響などの公害対策技術、省エネルギー技術の先進事例の収集まで幅広い活動を行っています。また、最新の活動状況を世界冬の都市市長会のウェブページにて発信しております。



小委員会報告書

冬の見本市、冬の都市フォーラム

冬の見本市・冬の都市フォーラムは、市長会議と併せて行われる、併催事業です。

「冬の見本市」は、開催市および会員都市の企業や団体が中心となって、冬や雪に関連する機材や製品の展示をはじめ、様々な技術の紹介を行うものです。

「冬の都市フォーラム」は様々な分野の専門家や学術研究者、あるいは市民が、冬のライフスタイルやまちづくりなどについて発表を行う学術交流の場です。1988年の第3回会議から併催されるようになり、世界冬の都市市長会議は、大きなイベントに発展しました。



冬の見本市会場

実務者会議

会員都市の行政実務者が集まり、次期市長会議の開催計画やテーマ、市長会の運営などについて協議する会議です。毎年行われています。

会員になるには

入会手続き： 会員になるには、入会しようとする都市の市長が会長に入会を申請し、役員会で入会が決定されます。

会費： 会員都市は、都市人口と国民1人あたりの国内総生産額(GDP)を基準として算出される年会費を払わなければなりません。ただし、入会初年度の会費納入金額は、年会費の半額となります。

会員になると： 会員になると、市長会総会及び市長会議に出席して発言し、表決に加わることができます。また、市長会議の開催市に立候補することができます。さらに、会員間に形成されているネットワークを活用して様々な分野で個別に交流をすることができます。

申込み先： 世界冬の都市市長会事務局
TEL 011-211-2032

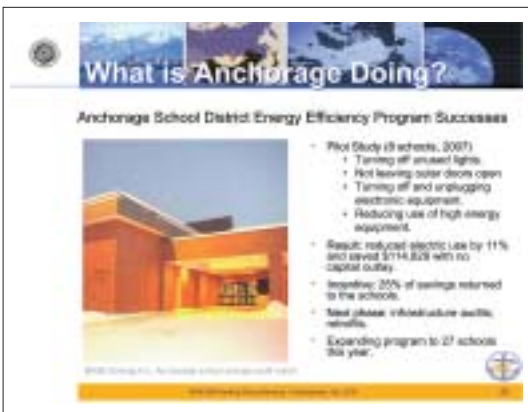
最新の会議内容やこれまでの成果についての詳しい情報を、世界冬の都市市長会のホームページに掲載していますので、是非ご覧下さい。(http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/)

世界冬の都市市長会は共に快適な冬のまちづくりについて考える会員都市を募集しています。加入の詳しい要件などについては、世界冬の都市市長会事務局までお問い合わせください。

- 2020年までに一人あたりの電力消費量を15%減少させる。
- 2025年までに電力の50%を再生可能なエネルギーから発電させる。

この2つの法令によって2億5千万ドルがアラスカ州内の公共建築物の改修に充当されます。さらに、同州は新興技術エネルギーの開発に補助金を交付し、代替エネルギー事業を推進している電力生産者に対して税制上の優遇措置を適用しております。

都市が取り得るあらゆる対策のうちで、最も重要で容易なものはエネルギー効率に関することです。例えば、米国においては、建造物は総エネルギーの40%を消費し、温室効果ガスの38%を排出しています。また同国においては、全コンピューターの60%が、一晩中電源が入ったままとなっております。



特にアラスカ州は、エネルギー効率の高い建物の普及度という点において、全米で最も好ましくない州に位置づけられております。しかしながら、アンカレッジ学区（通学区の名称）は優れたエネルギー効率事業を実施しております。

小委員会では、同市が大気汚染の改善にどのように取り組んでいるのかについて発表がありました。同市では、市民の健康に直接影響を与える、一酸化炭素、粒子状物質、PM-10（埃など）、PM-2.5（煙など）、鉛、ベンゼンなどの排出量を監視しています。

他の多くの都市が行っているように、同市の大気汚染の最新状況をインターネット上でも閲覧できるようになりました。

環境保全小委員会

（事務局：中国・長春市）長春市より以下の報告がありました。

【冬の都市における環境保全問題について】



長春市は世界冬の都市市長会活動を強く支持し、新たに制定された「環境保全小委員会」を通して積極的な役割を果たしたいと思っております。本市は当該小委員会に対して研究補助金の提供を約束しました。さらに、長春環境保全研究所と吉林石油化学設計・研究所という、地域の主要な2つの研究施設が、専門的見地から指導を行うことに同意いたしました。

2010年7月にウランバートルで開かれた世界冬の都市市長会実務者会議では、長春小委員会事務局を代表して同市環境保護局副局長の葉春民氏が演説



小委員会でプレゼンを行う、長春市環境保護局の葉春民副局長（写真右）

し、当該小委員会の研究内容のテーマとその内容についての発表がありました。報告によると、長春市は4年の活動期間中に2

つの具体的な課題、「冬期における大気中の粒子状物質の原因に関する分析」及び「融雪剤の使用による環境への負の影響」について調査研究活動を実施する予定です。葉副局長より同市を代表して、環境保全の観点での冬期の様々な環境問題についての説明がありました。同氏はまた、冬の都市は、最も重要な要素である市民の生活環境の向上、空気の質の改善、エコの推進を優先事項とすべきことを指摘しました。

さらに、同氏より、事前に会員都市向けに実施したアンケート結果の報告があり、その内容は同市が調査研究活動を開始するにあたって有益なものであることが伝えられました。実務者会議終了後、長春市では今回の小委員会での発表に基づいて、調査研究活動にとりかかる予定です。

長春市としては、本小委員会活動が、今回対象とする分野において他の冬の都市によい影響を与えることを願っております。



世界冬の都市市長会における新規活性化事業紹介 (韓国・華川郡)

～ W W C A M Exhibition Plaza ～

華川郡は、新たな活性化事業の事務局都市として、ウランバートルにおける2010年世界冬の都市市長会実務者会議において、全会一致で承認されました。

当事業に対する皆様からのご関心とご支援を重ねてお願い申し上げます。

華川郡は、本会会員都市となった2008年7月以来継続して、本会活動を促進し、宣伝することに力を入れてきました。

2011年新規活性化事業「世界冬の都市市長会展示プラザ」は、ヤマメ氷祭りに併せて実施する予定です。展示期間は2011年1月から2月のおよそ2ヶ月間で、祭りと同じ時期となります。

同プラザは世界冬の都市市長会全体と各会員都市のセクションに分けられる予定です。前者は主に本会の活動と役割に焦点を当てることとし、後者については、各会員都市の冬の伝統的な習慣や民俗文化を、後述するテーマに沿って展示いたします。

本事業にはすべての会員都市が参加可能であり、テーマは「伝統的な習慣」です。会員都市から寄贈される伝統的な品目を展示する予定です。

会員都市に提供をお願いするのは次のような品目です。伝統的な冬衣装、冬に使われる伝統的な玩具、工芸品、そのほか、各都市の伝統的な生活様式を伝えるものなど。

新たな活性化事業にご期待ください。どうぞよろしく願いいたします。



鄭 甲澈
(チョン・ガブチョル) 華川郡首



世界冬の都市市長会展示プラザ(会場イメージ)



世界冬の都市市長会会員都市写真展 (2010年1月)



ヤマメ氷祭り会場周辺の遠景 (2010年1月)